

# 教科【音楽】・種目【器楽合奏】

書 名 項目	中学器楽 音楽のおくりもの	17 教出
内容	<p><b>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○楽器ごとに楽器の各部の名称、姿勢と構え方、運指、奏法などが順序立てて示されており、スムーズに技能が習得できるように工夫されている。</li> <li>○学びのねらいをスタートして、まとめの曲をゴールと設定し、見開きごとに学習を見通せる構成になっている。</li> <li>○11の「学びのユニット」が設定されており、多様な構成が検討できるように配慮されている。</li> </ul> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「何が同じで、何が違う？」のページで共通性と固有性を考えさせ、特徴を理解することができるようにワークシート欄を設けている。“話し合おう”ではそれぞれの楽器の特徴を踏まえて、共通点や相違点について考えさせ、交流させたりすることができるようになっている。</li> <li>○タンギングの発音の種類が複数入った表(ローマ字の読みがなもついている)があり、音質と共に示されていて参考にしやすい。</li> <li>○リコーダーのサミングの2つの方法について、使い分けの例を具体的に示してあり、表現力を育成するために工夫されている。</li> <li>○「音のスケッチ」という創作コーナーでは、リズムや旋律などの創作活動ができるよう工夫がある。</li> </ul> <p><b>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Let's Play!」や「Let's Try!」、名曲旋律集では、様々な楽曲が掲載されており、興味関心を引きつけるものとなっている。</li> <li>○太鼓のばちの持ち方や箏の押し手の奏法など、写真で詳しく示されており、和楽器に興味関心をもって親しむことができるよう工夫されている。</li> <li>○「学びリンク」があることで、模範演奏の視聴をすることができ、意欲向上につながる工夫がされている。</li> </ul> <p><b>〈生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「唱歌について」では、同じ唱歌でも楽器によって全く異なることが分かるなど、音楽文化についての深い理解につながる工夫がされている。</li> <li>○若手演奏家や伝統音楽・芸能の担い手や後継者などが積極的に登用された紙面となっており、生徒のキャリアと関連するように工夫されている。</li> </ul>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各楽器の持ち方、構え方、構造などが複数の角度からの写真で示されている。</li> <li>○巻末のギター&amp;キーボードコード表では、38種のギターコードにおいて指で押さえた写真とタブ譜も載せているため、初心者にも分かりやすい。</li> </ul>	
表記 ・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインを取り入れ、レイアウト、表現方法、色づかいの工夫がある。</li> <li>○各楽器ごとに配色(二色刷り)され、色別で示されている。</li> <li>○和楽器においては、五線譜と和楽器独自の奏法譜が示されている。</li> </ul>	
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リコーダーや箏、三味線の教材として、鑑賞教材や一般音楽教材との関連教材が掲載されており、表現と鑑賞の領域を学べる工夫がある。</li> <li>○全ての楽曲が見開きでまとめられ、学習のまとめができる工夫がされている。</li> <li>○「発展」では、吹く楽器、弾く楽器の仲間が紹介されており、楽器の背景にある文化や伝統についても考えられるよう、書き込み式となっており、さらに学習する意欲が高められるように工夫されている。</li> </ul>	

# 教科【音楽】・種目【器楽合奏】

書 名 目 目 録	<h2>中学生の器楽</h2>	27  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 芸</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年間の学習内容が一目で分かる“学びの地図”が最初に配置され、さらにその3色の色分けは各題材ページにも同色が使われているため、分かりやすい。</li> <li>○アルトリコーダーの学習では、ソプラノリコーダーの取り扱いが増え、Lesson1からLesson4まで段階を追って技術が習得される工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「アンサンブルセミナー」「深めよう！音楽」で、学習の取り組み方や具体的な手順が分かりやすく示しており、表現力を育成するために工夫されている。</li> <li>○グループ活動の中で、アンサンブルをしながら学習を進められるような教材が含まれている。</li> <li>○箏による創作活動「My Melody」が充実し、課題に沿って創作する工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「楽器でMelody」では、身近な楽曲をリコーダーや箏、三味線、篠笛で演奏できるように工夫されている。</li> <li>○「演奏のポイント」が示され、演奏活動に取り組みやすい工夫がされている。</li> <li>○各楽器の演奏家からのメッセージを通して、より主体的・対話的に学びに向かうことができるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「音楽ってなんだろう？」は、楽器と人との関わりについてのメッセージと様々な楽器の写真が掲載されており、音楽とより豊かに関わるできるように工夫されている。</li> <li>○音や音楽が生活や社会、文化とどのように関わり、どのような意味や価値を持つのか生徒が意識的に考えるよう、同世代の音楽活動を掲載する工夫がされている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コードネームとともに、ギターフレットの押さえ方の写真とキーボードのコード表が示されている。</li> <li>○「楽器の図鑑」で様々な楽器を7つに分類しており、色々な楽器が存在することが一目で分かるようになっている。</li> <li>○和楽器を演奏している中学生の姿を紹介し、我が国の伝統的な音楽や楽器への親しみをもてるように配慮している。</li> </ul>	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽器の種類によって紙面上部の色に違いがあり、ユニバーサルデザインによる色づかいになっている。</li> <li>○基本的な「弾いてみよう」「吹いてみよう」、具体的な「演奏のポイント」が的確に示されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○唱歌を取り入れた学習により、実感を伴った深い学びにつながり、また「六段の調」の鑑賞との関連をはかることができるように工夫されている。</li> <li>○「アンサンブル」は、魅力的な楽曲が多数掲載されており、演奏についてのポイントも適切である。</li> <li>○リコーダーのアーティキュレーションについて、4つの奏法を表に示しており、名称と楽譜、奏法と記譜法が分かりやすく、工夫されている。</li> <li>○打楽器の種類が多く掲載され、演奏の仕方が細かく図解されている。</li> </ul>	